

『リベラルアーツ学群プログラム履修モデル集』について

リベラルアーツ学群では、2年次春学期から専門科目の履修が本格的に始まります。この履修モデル集は、みなさんが専門科目の履修を行っていくためのガイドとして編集されたものです。

履修モデル集は、各プログラムの「履修の手引き」と「履修モデル」から構成されています。

●履修の手引き

- 「履修の手引き」には、各プログラムから履修のしかたについてのメッセージが載せられています。ある程度自分の志望するプログラムが絞れている人は、それらのメッセージを参考にして履修を行って下さい。
- とくに、プログラムのカリキュラム構成が「積み上げ型」か「自由履修型」かで、1・2年次の望ましい履修のあり方が違ってきますので、その点を注意するようにして下さい。

●履修モデル

- 「履修モデル」とは、各プログラムの科目をどのように履修していったらよいかを例として示したものです。各プログラムを修了するためにはメジャー32単位、マイナー16単位の科目を修得することが必要ですが、どのプログラムもそれをはるかに上回る数の科目を提供しており、みなさんがその専門分野の中でさらにテーマを絞った履修ができるようになっています。「履修モデル」とは、そうしたテーマの例にそったカリキュラムを示したものです。
- 各プログラムの「履修モデル」ページには、そのプログラムの全科目をカテゴリーとレベルに応じて分類表示したマトリックスを記載しています。その中で「◎」のついている科目はメジャーの必修科目（教職モデルの場合は、教科に関する科目の必修科目）です。また、「○」のついている科目は、その履修モデルに該当する推奨科目です。
- 「その他の推奨科目」には、そのプログラム科目以外のお勧めの科目を記載してあります。
- リベラルアーツ学群には32のプログラムがありますが、この冊子には、各プログラムから提示された「履修モデル」が掲載されています。自分の関心あるプログラムの「履修モデル」をよく読んで、科目履修の参考にして下さい。

この『履修モデル集』は、みなさんが自分の学習計画を立てる際の目安として作成されたものであり、モデルのとおり履修することを義務付けているわけではまったくありません。むしろ私たちは、みなさんが Independent Learner として、自分の関心と視点に立って独自の「履修モデル」を作成することを期待しています。

リベラルアーツ学群の科目編成はきわめて自由であり、内容を絞る、いろいろな分野を組み合わせる、その専門分野のさわりを学ぶ、などさまざまな組み立て方が可能です。ぜひみなさんも、独自のテーマ性をもって自分の学習に取り組んでいって下さい。そして、「履修モデル」を通じたリベラルアーツ学群ならではの新しい学びの世界を、ともに切り開いて行きましょう。

リベラルアーツ学群教員一同

履修のしかた

- ・本プログラムは、〈導入・基礎〉〈理論・方法〉〈応用・展開〉〈実践・演習〉という4つのカテゴリーによって構成されています。これらを段階的に履修することで、基礎的な事柄から理論的な方法論の修得を経て、地域において実践する力を修得していくことができます。
- ・〈導入・基礎〉カテゴリーでは、地域に関する基礎的な知識を修得します。まず1年次に「地域デザイン概論」、2年次に「地域観光論」を履修することをお勧めします。次いで〈理論・方法〉カテゴリーでは、さまざまな学問分野を横断的に幅広く学んだうえで、〈応用・展開〉カテゴリーで、専門的な領域についてより深く探究していきます。そして〈実践・演習〉カテゴリーにおいて、地域の現場で役立つ実習や演習、具体的な技術を修得し、本プログラムで学んだことを地域で活かし実践するための技能を獲得します。

他のプログラムとの関係

- ・本プログラムは、人文、社会、自然の領域にまたがるさまざまな分野を横断して、総合的に学んでいく学問です。観光やまちづくり、コミュニティアート、環境、経済、メディア、コミュニケーションなど、多様な観点から地域について学んでいきます。
- ・したがって、地域に関わる学問分野は多岐にわたります。なかでも、社会学、環境学、博物館学、科学コミュニケーションなどのプログラムは、特に密接に関係しているといえるでしょう。

留学・教職その他

- ・本プログラムの特徴は、地域の現場で役立つ実習や演習、具体的な技術を修得するところにあります。フィールドワークをしながら、実際の地域課題の解決に向けた学びを深めることができます。ぜひ、フィールドに出て、地域の実際の姿に触れてみてください。
- ・日本の地域社会を考えるためには、海外との比較という視点も重要です。留学して海外の地域社会の実態に触れてみることは、とても貴重で重要な学びの機会となることでしょう。

学生へのメッセージ

- ・本プログラムでは、地域の課題解決に向けて実践的に考え行動していくための専門的な知識や技術を獲得することで、これからの地域社会の担い手として、行政や民間企業、NPO、市民運動、ボランティア活動など地域で活躍していくための実践力を養っていきます。
- ・具体的な就職先としては、市町村・都道府県などの公務員や、観光・旅行業などの民間企業が挙げられます。また、地域社会・地域文化の担い手として、地域の環境保護やまちづくりを担うNPO、博物館学芸員、地域密着型小売業、JA、社会福祉施設などのように、地域の現場で活動するような仕事も考えられます。
- ・地域デザインは、学問としては比較的新しい分野です。だからこそ、さまざまな可能性に満ちているといえます。一緒に、新しい学問を創り出していきましょう。

地域デザインプログラム

1 地域の現場を知り、実際に活動していくための力をつける履修モデル

本プログラムには、地域の現場で実践的な経験を積むカリキュラムが用意されています。こうした実習やフィールドワークを行うことによって、実際の地域課題の解決に向けた学びを深めるための履修モデルです。

地域デザインプログラム科目

level	100			200			300			400		
カテゴリー	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位
導入・基礎	◎	地域デザイン概論	2	○	地域観光論	2						
		人文地理学	2		観光人類学	2						
					環境と地域	2						
理論・方法					文化地理学	2		環境社会学A	2			
					地域社会学A	2		環境社会学B	2			
					地域社会学B	2		文化遺産論	2			
					博物館経営論	2	○	文化政策論	2			
					コミュニティ・アート	2		日本考古学	2			
					公共人類学	2		日本民俗学	2			
				○	環境とまちづくり	2						
応用・展開					環境倫理学	2						
					日本芸術論	2						
					多文化社会論	2		地域経済論	2			
					情報デザイン論	2		公共経済学	2			
					日本語の多様性と社会	2		地方財政論	2			
					リーダーシップコミュニケーション	2	○	環境学特別講義	2			
実践・演習	○	編集研究	2		組織コミュニケーション	2	○	環境NPO・NGO	2			
					地方紙を読む	2		環境アセスメント論	2			
					ネゴシエーション	2		メディアエーション	2			
				○	社会調査法A(質的調査)	2	○	社会環境調査法	2			
				○	社会調査法B(量的調査)	2	○	ソーシャルビジネス実習	2			
							○	文化人類学フィールドワーク	2			
							○	国際協力フィールドワーク(日本)	2			

その他の推奨科目 ※〔 〕内は単位数

地域デザインプログラム

2 地域デザインを理論的に学ぶ人のための履修モデル

地域を学ぶということは、必ずしもフィールドに出なければならないというわけではありません。地域社会に関して理論的に追究することも重要なアプローチとなります。地域についてさまざまな学問分野から総合的に学んでいく履修モデルです。

地域デザインプログラム科目

level	100			200			300			400		
カテゴリー	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位
導入・基礎	◎	地域デザイン概論	2	○	地域観光論	2						
		人文地理学	2	○	観光人類学	2						
				○	環境と地域	2						
理論・方法					文化地理学	2	○	環境社会学A	2			
				○	地域社会学A	2	○	環境社会学B	2			
				○	地域社会学B	2		文化遺産論	2			
					博物館経営論	2		文化政策論	2			
				○	コミュニティ・アート	2		日本考古学	2			
					公共人類学	2		日本民俗学	2			
					環境とまちづくり	2						
					環境倫理学	2						
応用・展開					日本芸術論	2						
				○	多文化社会論	2	○	地域経済論	2			
				○	情報デザイン論	2	○	地方財政論	2			
					日本語の多様性と社会	2	○	公共経済学	2			
					リーダーシップコミュニケーション	2		環境学特別講義	2			
					組織コミュニケーション	2		環境NPO・NGO	2			
					地方紙を読む	2		環境アセスメント論	2			
					ネゴシエーション	2		メディアエーション	2			
実践・演習												
		編集研究	2		社会調査法A(質的調査)	2		社会環境調査法	2			
					社会調査法B(量的調査)	2		ソーシャルビジネス実習	2			
								文化人類学フィールドワーク	2			
								国際協力フィールドワーク(日本)	2			

その他の推奨科目 ※〔 〕内は単位数

地域デザインプログラム

3 地域課題の解決に向けたコミュニケーション能力を身につけるための履修モデル

地域の現場に出て地域課題の解決にかかわるときには、コミュニケーション能力を含めたソーシャルスキルの獲得が重要となります。この履修モデルでは、地域のなかで人々と積極的に関わり、リーダーシップをもって活動していくために必要な能力を修得します。

地域デザインプログラム科目

level	100			200			300			400		
カテゴリー	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位
導入・基礎	◎	地域デザイン概論	2		地域観光論	2						
		人文地理学	2		観光人類学	2						
				○	環境と地域	2						
理論・方法					文化地理学	2		環境社会学A	2			
					地域社会学A	2		環境社会学B	2			
					地域社会学B	2		文化遺産論	2			
					博物館経営論	2		文化政策論	2			
					コミュニティ・アート	2		日本考古学	2			
					公共人類学	2		日本民俗学	2			
				○	環境とまちづくり	2						
応用・展開					環境倫理学	2						
					日本芸術論	2						
					多文化社会論	2		地域経済論	2			
					情報デザイン論	2		公共経済学	2			
				○	日本語の多様性と社会	2		地方財政論	2			
				○	リーダーシップコミュニケーション	2		環境学特別講義	2			
実践・演習	○	編集研究	2		組織コミュニケーション	2	○	環境NPO・NGO	2			
					地方紙を読む	2	○	環境アセスメント論	2			
					ネゴシエーション	2	○	メディアエーション	2			
					社会調査法A(質的調査)	2		社会環境調査法	2			
					社会調査法B(量的調査)	2	○	ソーシャルビジネス実習	2			
								文化人類学フィールドワーク	2			
								国際協力フィールドワーク(日本)	2			

その他の推奨科目 ※〔 〕内は単位数